

巡検報告書・基礎演習レポートの執筆要領

2009年10月27日現在

■はじめに

(1) 章節立て、文献表の書き方、注の使い方、文体等は『地理学評論』誌に準じる（後に必要な部分を「チェックポイント一覧」に抜粋）。

(2) 余白・フォント・レイアウト等については「チェックポイント一覧」の通りとする。

(3) 最終的にレポートのプリントアウト一部に加えて、ワードのファイルも提出する（巡検報告書の場合には、図・表・写真のファイルもあわせて提出する）。

■構成

標準的なレポートの構成は以下のようになります。

I はじめに

既存研究の動向やその到達点、課題あるいは筆者の問題意識などを整理した上で、レポートの目的を明記します。さらに、レポートの構成（章立ての内容など）についての説明を行います。

II 取り上げたテーマの概要説明（ex. ○○市の稲作農業の概要，××振興事業の概要）

III（複数章になる場合もあります）分析

聞き取り調査やアンケート調査の分析、各種資料の検討・分析などを行います。

IV 考察

V おわりに（むすびにかえて etc）

（※「おわりに」の章で考察を行う場合もあります）。

作成にあたって注意すべき点

(1) 全体のバランスに十分注意してください。レポートのスタイルによって違いはありますが、おおよそ

「はじめに」	: 20%
「取り上げたテーマの概要説明」	: 20%
「分析」	: 40%

「考察」＋「おわりに」 : 20%

ぐらゐの分量バランスを念頭に置いてください。

(2) 巡検に参加していない読者が内容を理解できるように、適宜、必要な情報（地域の概況・取り上げたテーマに関する概要など）を盛り込んでください。ただし、あくまでも前振りの部分ですので、過大な分量とならないように気をつけてください（(1)の目安を参考にしてください）。

(3) 記述や資料の出典、調査内容に関する基本情報（「誰に対する聞き取り調査なのか？」・「どのような形態で調査票を配布し、どのくらいの回収率のアンケート調査なのか？」といった点）を明記するようにしてください。

(4) 巡検で得た情報をすべて本文中に盛り込むと冗長になります。レポートのテーマと照らし合わせて、本文に盛り込む内容を取捨選択してください。また、補足的・追加的な内容については注を活用してください。

(5) レポートの中で必ず考察の章を設けてください（「おわりに」に相当する章の中で行っても構いません）。単に得られた素材を記述するだけではレポートではありません。考察にあたっては、現地でのインタビュー調査や各種の資料などの分析結果と整合的であり、なおかつ、それが読者に説得的に伝わるように記述することを心がけてください。

■書式

【行数・列数】（10ポイントで）42文字×36行

【フォント】MS明朝（章のタイトルはMSゴシック）・本文10ポイント

【余白】余白は上35mm，下30mm，左30mm，右30mm

【ページ番号】入れない（あとで通しページとするため）

【タイトル（1）：サブタイトルがない場合】

中国から学ぶ経済発展のための教育政策・方針（←14ポイント）

巡検 学（←10ポイント）

【タイトル（2）：サブタイトルがない場合】

日本の食料自給率（←14ポイント）

—国と国民の意識に原因を探る—（←10ポイント）

院紫波 九月（←10ポイント）

※「—」（ダッシュ）を「～」「一」などと間違えないようにしてください。

【章のタイトル】10ポイントMSゴシックで作成し、上下それぞれを1行づつ空けてください。

Ⅲ カスミサンショウウオの保護問題と里山

【図】

図のキャプションは全て下に書きます。図のタイトルはMS 明朝 10 ポイントで、キャプションはMS 明朝 8 ポイントで作成してください。また、図（キャプションも含む）の上下は1行ずつ空けてください。データの出所は「()」とじでキャプションの一番下を書いてください。

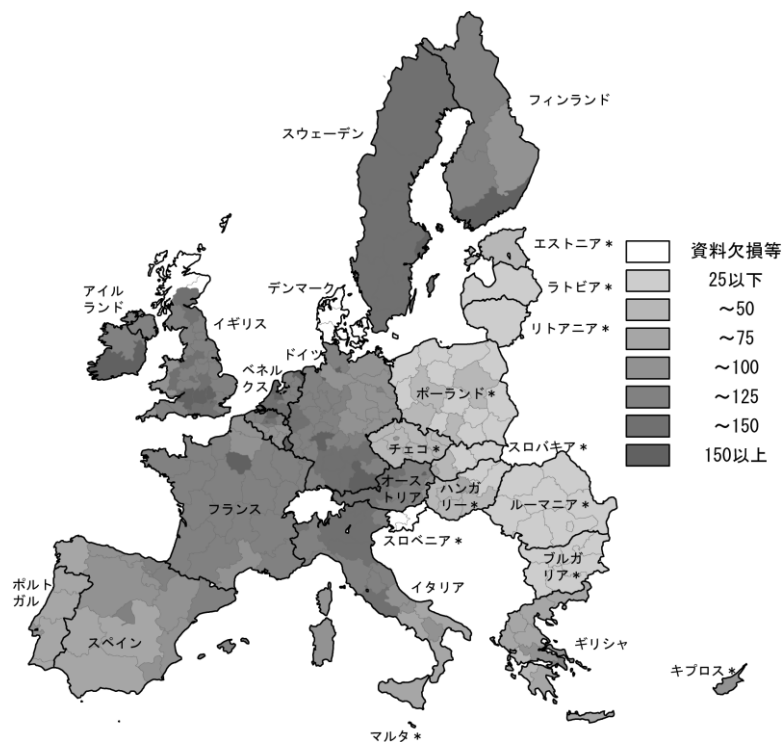


図1 域内（27カ国）平均の人口あたりのGDPに対する各地域の人口あたりのGDP（2004年、域内平均=100）

上図の地域単位はNUTS2（NUTSは、EUにおける統計上の地域単位を指し、数字が大きいほど小さな地域単位となる）である。ベネルクスはベルギー、オランダ、ルクセンブルクの3国を指す。国名の後に*（アスタリスク）がついている国は2004年および2007年に追加加盟した12カ国であることを指す。

(EU『EUROSTAT』より作成)

※図のサイズが不必要に大きなものにならないように気をつけて下さい。

※出典の表記については「〇〇より作成」（統計資料等を加工してオリジナルな図を作成した場合）あるいは「〇〇による」（写真・資料等をそのまま引用する場合）と表記してください。また完全な筆者オリジナルの図の場合でも「筆者作成」「筆者撮影」（写真の場合）あるいは「〇〇

調査より筆者作成」のような形でオリジナルであることを明記してください。

【表】

表については、タイトルは表の前に、その他のキャプションは表の後に書きます。表中の文字は10ポイントとし、表とキャプション全体をセンタリング（中央揃え）してください。また、表のタイトルはMS明朝10ポイントで、キャプションはMS明朝8ポイントで作成してください。表（キャプションも含む）の上下は1行ずつ空けてください。データの出所は（ ）とじでキャプションの一番下を書いてください。また、罫線が多くなりすぎると表がみにくくなります。表の外周部の他は、項目名や合計／比率の区切りのところ程度にとどめるようにしてください（下表を参考にしてください）。

表2 2002年度の経常収支比率と合併した小人口町村の比率の関係

2002年度の経常収支比率	合併した小人口町村		合併町村比率
	口町村数	数	
～69.9%	1	5	20.0%
70.0～74.9%	7	15	46.7%
75.0～79.9%	21	43	48.8%
80.0～84.9%	61	100	61.0%
85.0～89.9%	106	141	75.2%
90.0～94.9%	80	105	76.2%
95.0%～	58	80	72.5%
合計	334	489	68.3%

2003年11月までに合併等によって消滅した15町村を除く

（地方財務協会『市町村別決算状況調』より作成）

※「%」等は全角で表記し、数字は半角で表記するようにしてください。

※表の左右端は（縦の）罫線を入れないようにしてください。

※数値等でセンタリングをすると見にくくなる場合には右揃えでも構いません。

※出典の表記については「〇〇より作成」（統計資料等を加工して表を作成した場合）あるいは「〇〇による」（第三者が作成した表をそのまま引用する場合）と表記してください。完全な筆者オリジナルの表の場合でも「筆者作成」あるいは「〇〇調査より筆者作成」のような形でオリジナルであることを明記してください。

【文献リスト】

別紙の要領に従って文献リストを作成して下さい。表記が2行以上にわたるものはインデント処理（1字分空ける）を行います（下記および後述する例を参照）。

文献

赤井伸郎・佐藤主光・山下耕治 2003. 『地方交付税の経済学-理論・実証に基づく研究』有斐閣.

伊多波良雄 1995. 『地方財政システムと地方分権』中央経済社.

【句読点】

「,」「.」で書く（「.」「,」ではありません）。

【注】

WORDの脚注機能を利用して作成して下さい。注の形態は文末脚注とし、注番号は1, 2, ……で振っていき、注の数字の後には上付きで「）」を付け、「年次は西暦で表す¹⁾。」のようにして下さい。また、注の文字のサイズは10ポイントとして下さい。

また、「文末脚注の境界線」および「文末脚注の継続時の境界線」は消して下さい。

「文末脚注の境界線」および「文末脚注の継続時の境界線」の消し方

①【表示】－【下書き】をクリックし、下書き表示モードに変更

②【表示】－【脚注】を選択して注を表示

すると下ののように画面が分割されて、注が表示されると共にコンボボックス（下図のプルダウンメニューのところ）が出てきます。

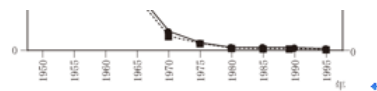
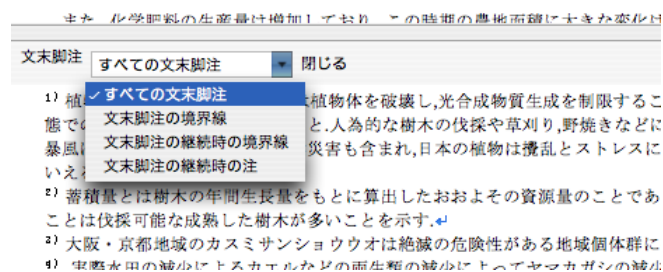
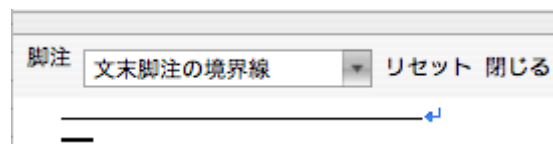


図1 薪・木炭生産量の推移

『林業統計要覧』より作成（林野庁弘済会，1982，1987，1992，1997）



③コンボボックスで「文末脚注の境界線」および「文末脚注の継続時の境界線」を選択すると下のように表示されます。



④罫線の引かれている部分を削除してください。

以上の手続きで「文末脚注の境界線」および「文末脚注の継続時の境界線」を消すことができます。

■地理学評論書式抜粋（サンプル文章および『地理学評論』誌掲載論文も参考にしてください）

5. 本文

5.1. 文章表記の一般的原則

1) 章はⅠ，Ⅱ，……，節は 1.， 2.， ……， 項は 1)， 2)， ……， として下さい。本文中では「Ⅲでは」「Ⅱの 1 における」のように表記して下さい。なお，章節名の数字および. はすべて全角で表記して下さい。

※節を引用する場合には「1 で記したように」「2 で記したように」の形で表記し「1. で記したように」「2. で記したように」とはしないで下さい。また，本文中の数値等と混同しないよう全角を用いてください。

- 2) 特殊な字体(イタリック, ボールド, ギリシャ文字など)は明瞭に区別できるようにして下さい.
- 3) 算用数字や欧字などは, 1字のみの場合を除き, 半角として下さい.
- 4) 年次は西暦で表記して下さい. ただし, 日本や中国などに関する歴史的記述などでは, 必要に応じて 1782 (天明2) 年のように年号を併記しても結構です. 「天明年間」「文化文政期」などのように年号による特定の時期の表現が必要な場合には, なるべく初出の際に対応する西暦を括弧書きで付記して下さい. その際 「1810年代」「19 世紀初め」のような概略の表現でも結構です.
- 5) 外国語文献からの直接引用は日本語訳を原則とします. 古い日本語文献からの直接引用は原典通りとしますが, 漢字はなるべく現行の日本語での一般的な字体を用いて下さい.
- 6) 外国語(固有名詞を含む)の原語表記が必要な場合には, 初出の場合にのみ片仮名・訳語などの日本語表記の後に続けて併記し(括弧は不要), 以後は日本語表記とします. 漢字・ラテン文字以外の特殊な文字はラテン文字化して下さい.

5.2 送り仮名, 漢字と平仮名との使い分けなど

原則として, 次の例および本執筆要領での用例に準拠して下さい. 【 】は見出し(五十音順)を示しています. 斜線(/)で区切ったものは, 同音異義の語句, 紛らわしい語句, または許容範囲などであり, これらについては, 適切な選択・使い分けや, 同一論文内での統一に注意して下さい.

() は使い方の例としての補足を示します. [] は意味・読み方を示します.

【ア】 あえて あげる/上げる/挙げる (1人) 当たり (～に) あたる[相当・対処] (日が・壁に・予報が) 当たる 当てる/充てる 後[アト] (～人) 余り あまり～ではない 新たに あらためて 改める 表す/現す 表れる/現れる ある[或・在・有] あわせる/合わせる/併せる 【イ】 言い替える (～と) いう (例が) 言う (～と) いえる[推測・判断・可能・解釈] (～して) いく (傾向が) 行く 意思/意志 いつ 一切 一層 いったん 一方 いまだ(に) 入江 いろいろ いわゆる 【ウ】 (～の) 上では 何う 後ろ (～の) うち[内] 打切り 埋立て 埋立地 埋め立てる 売上売上額 売り上げる 【エ】 (やむを) 得ず 【オ】 大いに 大まかな おおむね おおよそ 置き換える (～して) おく (～を) 置く おそらく 落ち着き 主に および 及ぶ お礼 卸売 【カ】 買占め 概して 買付け かえって (～に) かかわらず 関わる (管見の) 限り (～でない・～する) 限り 箇所 (4) カ所 (あり) 方[カタ] (～のような・～という) かたちで 必ず 仮に 【キ】 聞取り 聞き取る (～に・～から・～して) きた 来た 切り替える きわめて 極める 【ク】 組合 組合せ 組み合わせる 組替え 組替人口 組み替える 組立て 組立工場 組み立てる 比べる (～に・～から・～して) くる 来る 【ケ】 けっして 現に 【コ】 御[ゴ] こと

に (～) ごとに ころ/頃 【サ】 さかのぼって さかのぼる/溯る 作付 作付面積 さまざま さらさら さらなる 【シ】 塩漬け 仕組み 志向/指向 次第に 下請 従う したがって 実に 十分 しょせん 【ス】 ずいぶん (～に) すぎない (多) 過ぎる (期限を) 過ぎる すぐに すでに 【タ】 他[タ] たいして[大して] (～に) 対して対象/対照/対称 田植 確かだ 確かに ただし 直ちに たとえば たびたび (～する) たびに たぶん (～である・～する) ため 足りる だれ/誰 単に 【チ】 ちょうど 【ツ】 次いで ついに つくる/作る/造る 漬物 つねに 積込み 【テ】 手掛かり (～することが) できる 手続/手続き 【ト】 等[トウ] (次の) 通り (～した) とき 特に (～してみた) ところ (住む) 所 とどまる 止める (両者) とも (両者は) 共に (～すると) ともに とらえる 取扱い 取扱量 取組み 取締まり 取引 とる/取る/採る/捕る/執る/撮る 【ナ】 ない[無] なお中[ナカ] 中でも 半ば なぜ (～) など なにとぞ 並[ナミ] 做う ならびに 並ぶ 並べ替える (そう) なる (～から) 成る 【ニ】 (～し) にくい 【ノ】 後[ノチ] 延べ (～に) のぼる[達する] 上[ノボ]る 【ハ】 はからずも はかる/図る/計る/測る/諮る (～を) はじめ 初め 初めて はじめに[章タイトル]始める はたして 果たす 【ヒ】 引上げ 引き上げる 引き伸ばす 【フ】 ふさわしい 再び 踏まえる 触れる 【ホ】 ほかに 保証/保障/補償 (～) ほど ほとんど 【マ】 まさに まして (～にも) 増して まず ますます また まだ 町並 全く 祭り (祇園) 祭 まで 間に合う (～して) 間もない まも なくまれ 【ミ】 見出す/見出だす (～から) みた/見た[観察・考察・対照] みなす (～して・～と) みる[試行・推測・判断] (～を) 見る 【ム】 難しい 結びつく/結び付く むろん 【メ】 目指す めったに 【モ】 もちろん もつ/持つ もっとも[当然・ただし] 最も[最上級] もっぱら もと/下/基/元 もともと 最寄りの 最寄品 盛土 もろもろ 【ヤ】 やめる 【ユ】 ゆえに (～して) ゆく 【ヨ】 (～して) よい 良い 要するに (～の) ように よく[詳しく・十分に・しばしば] よけいに 呼ぶ 読取り 読み取る 【ワ】 わかる/分かる 分かれる 別れる 枠組 (～する) わけではない 分ける わずか (～に) わたって 割当て われわれ[我々]

5.3. 常用漢字外の漢字

1) 常用漢字による代用・言替えが一般化している場合には、次の例のように常用漢字を用いて下さい。

陰影 間欠 (灌木→) 低木 希少 希薄 漁労 掘削 係留 決壊 子牛 枯渴 混交 砂漠 散布

蒸留 侵食 浸透 州 生息 底引網 盾状地 鳥観 沈殿 (屠殺→) 畜殺 発酵 溶岩

2) 特定の作物・家畜・商品・専門用語などを示す場合や、常用漢字による代用・言替えが困難または不適当な場合には、次の例のように、常用漢字外でも本来の漢字を用いて下さい。ただし「旱魃」は「干ばつ」でも結構です。

隘路 暗渠 按分 隱喻 迂回 堰堤 花卉 家禽 崖 花崗岩 瓦 灌溉 柑橘類 旱魃 涵養 急峻 僅少

燻製 珪藻土 啓蒙 勾配 砂嘴 珊瑚礁 山麓 嗜好品 悉皆調査 褶曲 充填 趨勢 犁 鋤 裾野 遡及
堆積 溜池 湛水 稠密 潮汐 塵 汀線 伝播 洞窟 杜氏 島嶼 鍍金 糠 剥落 播種 氾濫 肥沃 埠頭
分水嶺 僻地 編纂 変貌 萌芽 圃場 粃 湧水 稜線 輪廻 礫 煉瓦

5.4. 算用数字と漢数字との使い分け

原則として、以下の例に準拠して下さい。

1人当たり 一人っ子政策 一,二を争う 世界一 第一次産業 一次産品 二次加工 2次元 二分する
第二次世界大戦 第二種兼業 二重構造 第2に 第2次5カ年計画 二国間援助 第三世界 六大都市
三大都市圏 百万都市 四分位 千数百人 2万数千人 2万5000分の1地形図/ 2.5万分の1地形図
日系二世 ルイ14世 八代将軍吉宗

5.5. 並列的表現

1)単純な並列では「および」「または」を用いて下さい。2段階の列挙的な並列では、下位に「および」、上位に「ならびに」を用いて下さい。2段階の選択的な並列では、下位に「もしくは」上位に「または」を用いて下さい。

2)並列を意味する「・」は「の」などを含む複合的な語句の並列には使わないで下さい。

例 小麦・大麦の栽培・酪農・羊の放牧 → 小麦・大麦の栽培, 酪農, 羊の放牧

3)「たり」を用いる並列では「～したり～したりする」のように表記して下さい。

4)「と」を用いる並列では「～と～と」のようにする方が文意が明確になります。

5.6. 動植物名

1)動植物名は、原則として片仮名で表記します。ただし、家畜・作物などで、牛、豚、米、小麦のように漢字の使用が一般化している場合には、漢字で表記します。

2)動植物の学名はイタリックで表記して下さい。

5.7. 数量・数字・単位

1)数量の表記では「1万2000」または「12,000」のいずれかの方式を採用し「1万2,000」のような両方式の混用はしないで下さい。

2)分数は「3分の2」または「2/3」のように表記して下さい。

3)緯度・経度は「北緯42度15分」または「45°12'N」のように表記して下さい。

4)二つの年次(年代)で期間を表すときには「19」などを略さず「1960～1980年」「1960年代～1980年代」のように表記して下さい。ただし、図表では適宜簡略化して構いません。

5)精度・サンプル数や文章の趣旨を十分に考慮し、本文では不必要に細かな数値を用いないで下

さい。特に表で詳細な数値が明示されている場合にはなるべく簡潔に表現して下さい。また「約」は概数であることを特に強調する必要がある場合を除いてみだりに用いないようにして下さい。

6) 単位は、 km^2 、 $^{\circ}\text{C}$ 、%のような一般的な記号がある場合にはそれらの記号を用います。

7) メートル法以外の特殊な単位は、初出の際に括弧書きまたは注で説明し、メートル法換算などを付します。ただし、一般によく知られているもの（里、貫、石、町、反、マイル、バーレルなど）については、この限りではありません。なお、ヤードポンド法の単位を米式以外で用いるときには「英ガロン」のように明記します。

8 「t」は、重量単位としてのメートルトンだけに用います。その他の米t（ショートトン）や船舶関係の各種のtなどは、そのつど「米t」「総t」のように明記します。

9) 人口は、前後関係で人口数であることが明白な場合には「人口10万以上の都市」のように、原則として単位の「人」を省略します。

5.8. 数式

1) 数式は2行分以上取り、文字・数字・記号などの種類および大小や特殊な字体（イタリック、ボールド、ギリシャ文字など）を明瞭に区別できるようにします。

2) 各数式の後に(1)、(2)、……、のように通し番号を付します。

3) 一つの量は一つの文字で表します。

4) 数量・物理量を示す記号はイタリックにします。数式の添字も数量・物理量あるいは番号に対応する場合には、イタリックにします。ただし、添字が言葉の意味を示す場合(gasのg, normalのn, relativeのr, electricのeなど)には立体にします。

5) ベクトルはイタリックボールドとします。

5.9. その他の留意事項

1) 直接引用には「」を用います。本文などで直接言及する書名には『』（欧文はイタリック）、論文名には「」（欧文は“ ”）を用います。

2) 難読語句・難読地名は、本文の初出の際にルビを付します。摘要や図表ではルビは付しません。

3) 「～であるが、」のような場合の「が」は、逆接的用法のみに用います。

4) 外国語の片仮名表記では、人名の姓と名とを区別するような場合を除いて、みだりに「・」で分割しないようにします。複合的な姓を区切る必要があるときには「フィッシャー＝ディスカウ」のように「＝」を用います。

5) 「より」は「～より多い」、「～より～の方が」のように比較の場合のみに用います。起点・出所・根拠などには「～から～まで」、「～により作成」、「～から作成」のように「から」や「により」などを用います。

6) 「割合」は「(総人口に占める) 男性の割合」のように、合計して100%になる場合での特定部分の構成比を示す場合に用います。「比率」は、「(女性に対する)男性の比率」のように、それ以外の場合に用います。

7) 文章表現は「分析を行う」→「分析する」のように、なるべく簡潔・明快にします。

8) 「我が国」という表現は避け、より客観的・地理的な領域を示す表現としての「日本」を用いるようにします。

9) 「筆者」という表現は、原稿の著者自身(一人称)を指す場合のみに用います。

10) 機関名のうち、よく知られていて混同の恐れがないものは、正式名称にはこだわらずに「～省」などを省略した実質的な機関名を用いて構いません。

例 アジア経済研究所 国土地理院 国立国会図書館 社会保障・人口問題研究所 産業技術総合研究所 統計局 農業環境技術研究所

6. 謝辞, 研究費, 発表集会名 謝辞は、調査対象地域での協力者への謝辞など、対外的なものを優先します。科学研究費補助金などを使用した場合には、その年度、種類、題目、代表者、課題番号などを記します。また、当該研究を発表した研究集会名とその年月を記します。

7. 注 注は、本文の記述を簡潔にするために、本文の内容に密接に関連してそれを補足する必要がある場合に限って用います。本文中の当該箇所の右肩に右片括弧付きで通し番号を付し、本文(謝辞)の後にまとめて、番号を付して注の内容を記します。

8. 文献表と文献引用 以下の各項目は、日本語文献、中国語文献、韓国(朝鮮)語文献、欧語(ラテン文字)文献に関する一般的な記述です。その他の言語・文字(ロシア語など)による文献は、ラテン文字化し、欧語文献として扱います。

8.1. 文献表の配列

1) 日本語文献、中国語文献、韓国(朝鮮)語文献、欧語文献の順に並べます。

2) 日本語文献は、著者名の五十音順に並べます。中国語文献および韓国(朝鮮)語文献は、それぞれ著者名の当該言語の固有の配列順(あるいは片仮名表記の五十音順)に並べます。欧語文献は、著者名(姓が先)のアルファベット順に並べます。

3) 同じ著者の文献は発表年の順に並べます。同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順にa, b, ……を付して並べます。

4) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には著者数の少ない順に並べます。著者数が同じ場合には、第2著者(以下)の五十音順(アルファベット順)に並べます。著者が3人以上でも全著者名を列記します。

8.2. 文献表の表記

- 1) 日本語文献，中国語文献，韓国（朝鮮）語文献の著者名（漢字）はフルネームとし，欧語文献の著者名は，姓以外はイニシャルのみとします（著者の姓と名との区別ができないなどの場合には，担当教員もしくはT Aにご相談ください）。
- 2) 欧語の単行書名・雑誌名はイタリックとします。欧語の論文名・単行書名は，固有名詞などを除いて表題（コロンの後の副題も含む）の最初の1文字のみを大文字とします。欧語の雑誌名は各語大文字+小文字とします。
- 3) 文献の表題や雑誌名などは原典通りとします。ただし，欧語の雑誌名の冒頭の定冠詞は省略します。また，中国語・韓国（朝鮮）語文献や古い日本語文献の漢字は，なるべく現行の日本語での一般的な字体を用います。古い日本語文献の表題における歴史的仮名遣いや片仮名表記などは原題通りとします。なお，韓国（朝鮮）語文献におけるハングル文字の部分は，原語に最も近い日本語の漢字または片仮名表記に置き換え，末尾に（韓国語）または（朝鮮語）と付記します。
- 4) 日本語，中国語，韓国，朝鮮語の雑誌名は原則として略記しません。欧語の雑誌名を略記する場合には正式な略記法に従い，過度の略記は避けます。特に，略記が一般化していない場合，正式な略記法が不明の場合，他誌と混同しやすい場合，本誌での引用例が少ない場合には，略記しないようにします。
- 5) 同名または類似名の雑誌があつて紛らわしい場合，本誌での引用例が少ない場合などには，必要に応じて，発行地または発行機関名などを括弧書きで付します。
- 6) 巻と号のある雑誌では，巻ごとに通しページがある場合には号数を省略します。号ごとにページが改まる場合には，巻数の後に号数を丸括弧に入れて「3(4)」のように書きます。巻がなく号のみの場合には，号を巻に準じて示します。なお，巻（号）数の表記は，原典がローマ数字や漢数字などの場合でも，算用数字に統一します。
- 7) 雑誌論文あるいは論文集掲載論文の場合には，論文の最初と最後のページを示します。単行書の総ページを記す必要はありません。引用ページの明記が必要な場合は，本文中の当該文献を引用する際に行います。
- 8) 出版地が複数のときは最初の一つだけで結構です。
- 9) 訳書を引用した場合には，下記の文献表の例に倣い，訳書の記述の後に原著に関する情報を併記します。原著を引用した場合で，訳書も示す場合には，原著の後に併記します。
- 10) 再版，復刻版などの場合には，原則として実際に引用した文献について記し，必要に応じて初版などに関する情報を付記します。ただし，完全な復刻版の場合で，本文の記述の上で特に必要であれば，原著について記し，復刻版に関する情報を付記します。
- 11) Webページは，読者が参照しようとした場合にページが削除・変更されていたりして参照で

きない場合も少なくないので、引用にはできるだけ著書や論文等の刊行物を用いるようにします。しかし、Webページに代わる刊行物がなく、やむなくWebページを引用する場合には、以下の例に示すように、文献表にページの作者名、作成年（表記がある場合）、Webページの名称・タイトル、最終閲覧日（Webページを確認した最新の年月日）を記載します。

8.3. 文献表の例

※下記の例のように2行以上にわたる場合にはインデント処理（2行目以降は行頭を1字分空ける）を行って下さい。

※サブタイトルの前には「—」（ダッシュ）を入れます。

文献

- 猪木幸男・黒田和男 1965. 5万分の1地質図「大江山」および説明書. 地質調査所.
- 宝田晋治・村岡洋文 2004. 八甲田山地域の地質. 地域地質調査報告(5万分の1地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 上原秀明 1999. 織田武雄著 『古地図の博物誌』 (書評)地理学評論 72A: 457-460.
- 漆原和子 1990. 石灰岩地域の土壌. 浅海重夫編『土壌地理学—その基本概念と応用』177-185. 古今書院.
- 太田陽子・寒川 旭 1984. 鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動. 地理学評論 57A: 237-262.
- 高阪宏行 2000. 『地理情報科学ハンドブック』朝倉書店(出版予定).
- 後藤忠志 1993. 大雪山・北八甲田山における登山道の侵食. 北海道大学大学院環境科学研究科修士論文.
- スミス, D. M. 著, 竹内啓一監訳 1985. 『不平等の地理学—みどりこきははずこ』古今書院. Smith, D. M. 1979. *Where the grass is greener: Living in an unequal world*. London: Penguin Books.
- 高橋 誠 1987. Gilg, A.: *An introduction to rural geography* (書評) 地理学評論 60A: 407-408.
- 中道圭一・森山昭雄 2005. 三河山地西縁花崗岩丘陵地における二次林植生. <http://www2.rak-rak.ne.jp/D0AB3812/study/mikawaforest.htm> (最終閲覧日 2006年 4月11日)
- 日本火山学会編 1984. 『空中写真による日本の火山地形』東京大学出版会.
- 藤野 毅・浅枝 隆・和氣亜紀夫 1996. 夏季の都心部周辺における気温分布特性に関する数値実験. 地理学評論 69A: 817-831.
- 前島郁夫・田上善夫 1990. 世紀初頭の日本の気候—1986年を中心に. 前島郁夫編『江戸時代の日記の天気記録による気圧配置型の復元』(昭和62年度～平成元年度科学研究費補助金一般研

- 究(B)研究成果報告書) 82-96. 東京都立大学理学部地理学科.
- 森川 洋 1990a. 『都市化と都市システム』 大明堂.
- 森川 洋 1990b. 広域市町村圏と地域的都市システムの関係. 地理学評論 63A: 356-377.
- 渡邊真紀子 1987. 男体山東麓域における土壌腐食特性の垂直分布と水平分布. 地理学評論 60A: 251-264.
- 南 榮佑 1988. 『都市ト国土』 ソウル: 法文社 (韓国語).
- Christaller, W. 1933. *Die zentralen Orte in Süddeutschland*. Jena: Fischer. Translated by C.W. Baskin 1966. *Central places in Southern Germany*. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.
- Cooper, M. 1996. Harley-riding, picket-walking socialism haunts Decatur. *Nation* April 8: 21-25.
- Dennis, R. 1989. Dismantling the barriers: Past and present in urban Britain. In *Horizons in human geography*, eds. D. Gregory and R. Walford, 194-216. London: Macmillan.
- Griffith, D., Doyle, P., and Wheeler, D. 1997. A GIS and spatial statistical analysis of urban childhood lead pollution exposure. In *Conference proceedings and program*, First Syracuse Regional Lead Conference. ed. A. Hunt, 13-16. Syracuse: SUNY Health Science Center.
- Harris, C.D., and Ullman, E.L. 1941. A theory of location for cities. *American Journal of Sociology* 46: 853-864. Reprinted in Mayer, H., and Kohn, C. eds. 1959. *Reader in urban geography*, 202-209. Chicago: University of Chicago Press.
- Johnston, R.J., Gregory, D., and Smith, D.M. eds. 1994. *The dictionary of human geography*, 3rd ed. Oxford: Blackwell Publishers.
- Krim, A.J. 1967. *The innovation and diffusion of the street railway in North America* s Geography, Master' thesis, Department of University of Chicago.
- Morin, K. 1996. *Gender, imperialism and the Western American landscapes of Victorian women travelers, 1874-1897*. Ph.D. dissertation, Department of Geography, University of Nebraska.
- Okazaki, S., and Sunamura, T. 1994. Quantitative predictions for the position and height of berms. *Geographical Review of Japan* 67B: 101-116.
- Richter, M. 1996. Klimatologische und pflanzenmorphologische Vertikalgradienten in Hochgebirgen. *Erdkunde* 50: 205-237.
- Smith, D.M. 1979. *Where the grass is greener: Living in an unequal world*. London: Penguin Books. スミス D M 著, 竹内啓一監訳 1985. 『不平等の地理学—みどりこきははずこ』 古

今

書院.

Stanislawski, D. 1974. Review of *Topophilia: A study of environmental perception, attitude and values* by Yi-Fu Tuan. *Professional Geographer* 24: 456-457.

Trimble, S.W., and Lund, S.W. 1982. *Soil conservation and the reduction of erosion and sedimentation in the Coon Creek Basin, Wisconsin*. U.S. Geological Survey Professional Paper 1234. Washington: U.S. Government Printing Office.

United Nations Educational Science and Cultural Organization (UNESCO). International Hydrological Programme (IHP). <http://www.unesco.org/water/ihp/index.shtml> (最終閲覧日: 2006年5月15日)

Wade, R. 1999. The Asian debt-and-development crisis of 1997-? Causes and consequences. *World Development* 27 (forthcoming) Also at <http://epn.org/sage/asia698.html> (最終閲覧日: 2006年4月21日)

8.4. 本文などでの文献引用

次の例に準拠して 著者の姓 (紛らわしい場合には名も併記) と発表年を示して下さい. 著者が3人以上の場合には, 筆頭著者の姓に「ほか」または et al. を付けてください. 直接引用の場合には該当するページを明記します. また, 直接引用以外でも, 必要に応じてなるべく関連ページを示します. 特に単行書の場合, 実際に該当するページを特定できるときには, その範囲を明示することが望ましいです.

日本火山学会(1984)は……, 森川(1990a: 182-192, 1990b)は……, 米倉(1977, 1978a, b)は……, 高阪(2000: 50, 61-62)は……, 太田・寒川(1984)は……, Okazaki and Sunamura(1994)は……, 藤野ほか(1996)は……, Johnston et al. (1994: 136-138)によれば……, これらの研究(渡邊 1987;漆原 1990)は……, ……である(スミス 1985: 27), ……という見方もある(Dennis 1989; Richter 1996).

8.5. 文献表にあげることができないもの

1)年鑑, 統計書, 新聞記事, 古文書, 地図(説明書付きの地図, 地図集は除く), 私信などの史資料は, 本文, 注, 図・表の注のいずれかにおいて, 編者, 発行年次, 発行機関, 所蔵先などの書誌情報のうち必要と思われるものを記します. ただし, 論文に準じた新聞記事で, 著者名, 表題, ページ数が特定できるものは, 文献表にあげることができます.

2)研究集会などでの口頭発表で, 要旨が印刷物として刊行されていないものは, 発表者名, 題目,

集会名，開催年次などを注で記します。

10. 図・表

10.1. 共通事項

1) 図・表ごとに，図 1，表 2 のようにそれぞれ通し番号を付けます。一つの図・表が複数の部分に分かれる場合には a， b， ……を付し，本文では図 1 -a のように言及します。

2) 写真は，図として扱います。ただし，特に必要な場合や，写真が多い場合には，写真 1，写真 2 のように図とは別に扱っても結構です。